

自転車ですまホは危険

旭野高生 運転中の見え方体験



スマホを使いながら人の間を運転する生徒
(手前) =尾張旭市東印場町の旭野高で

自転車の運転中にスマートフォンを操作する「ながらスマホ」の危険を伝える交通安全講座が、尾張旭市の旭野高校であった。

一、二年生約七百五十人が参加。ながら運転の危険性を研究する愛知工科大(蒲郡市)の小塚一宏名誉・特任教授が講師を務め

た。尾張地域で講話するのは初めてという小塚教授は「意識や視線は興味の強い方に集中する」と指摘し、視野に入っても脳が認識しないと気付かないことなどを説明した。

代表の生徒が、スマホを操作しながら自転車を運転したときの見え方も体験した。視線の動きを記録する装置を着け、歩き回る生徒の間を運転。運転だけをしたときの映像と見比べ、周囲が見えなくなるのを体験した。

運転した二年中村駿斗さん(二も)は「今回危ないのが分かった。気を付けたい」と話した。(菅谷仁志)

2019年3月7日付け

中日新聞掲載 この掲載は中日新聞社の許可を得ています。